

平成31 年度全国学力・学習状況調査分析結果

① 実施日 平成 31 年 4 月 18 日 ②対象児童 第 6 学年児童 148 名

③ 学力分析と課題及び対策
(全国平均正答数との比較)

国語	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
横浜市立美しが丘西小学校	148	9.9 / 14	71
神奈川県 (公立)	73,380	8.5 / 14	61
全国 (公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8

算数	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
横浜市立美しが丘西小学校	148	10.6 / 14	76
神奈川県 (公立)	73,380	9.4 / 14	67
全国 (公立)	1,028,177	9.3 / 14	66.6

上記の表からもわかるように、国語、算数ともに全国の平均を上回っています。算数と理科に対する関心は児童に対するアンケートの結果から見ても高く、関心が高いほど、正答率も高いことが分かります。

問題別の傾向を分析すると、国語は「読むこと」や「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が高く、文章の内容を的確に押さえながら読んだり、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の意見を話したりすることができる力が身についています。しかし、例年苦手としている「書くこと」に関する問題では、まだ苦手意識をもつ児童が多く、改善の余地があります。授業の中では自分の考えを書くなど、書く機会は多く設けておりますが、児童の活動に対する効果的なフィードバックの方法など、指導面でも改善すべき点を今後の研究等で吟味していきたいと思えます。

算数では、グラフなどの資料から必要な事柄を読み取ったり、整数・小数・分数の基本的な計算をしたりする力が優れています。どの分野も平均以上の正答率ですが、図形に対しての理解に若干の苦手意識がある児童がいるようです。図形は特にイメージができる・できないに個人差が生まれやすいため、具体物を操作したり、映像資料を活用したりするなど、指導方法も工夫していく必要があると言えます。

どちらの教科とも選択式・短答式の問題に比べ、記述式の問題においての正答率が低くなっています。全国的な傾向ではありますが、自分の考えを自分の言葉でまとめたり、友達に伝えたりする力がまだ身に付いていないと言えます。

本校では対話的な学習を重要視しており、日々の授業の中でも友達に自分の考えを伝えたり、その考えの良さを認めたりする活動を行っています。支援方法の有効性を検証しながら、さらに効果的な手法についても職員間で研究しながら支援を続けていきたいと思えます。